

地上波テレビ放送に於けるニュースの音についての一考察

～ニュースに於ける音の意味～

Study on sound in TV broadcasts

～The meaning of sound in TV broadcasts～

2015年3月

石橋 透

地上波テレビ放送に於けるニュースの音についての一考察

～ニュースに於ける音の意味～

Study on sound in TV broadcasts

～The meaning of sound in TV broadcasts～

石 橋 透

ISHIBASHI Toru

[要約]

テレビニュースは、1953（昭和28）年のテレビ放送開始の日から1日10分弱程度だが毎日放送されていた。その形式は、フリップボードに書かれた文字や写真、そして地図等をカメラで写し、それに合わせてラジオニュースの原稿をアナウンサーが読み上げるものであった。

やがてアナウンサーがカメラの前でニュースを読む、「顔出しニュース」と言われる放送形態が採用され、アナウンサーは「話すように読む」ことが求められるようになる。1995（平成7）年頃には天気予報にBGMを付け、タイトルロゴと時間を画面表示する現在の方式へと変化していく。

そして、世の中のスピードが年々加速すると共に話すスピードも速くなる傾向にある。ニュースにおける「音」の構成要素も変化し、BGM、タイトルSE、現場ノイズ、と言った音の洪水の中にアナウンサーの速い喋りが埋もれているような放送が多くなってきている。

そこで、話すスピードを始め、ニュース番組で「音」はどのように使われているかを検証し、聞きやすいニュースとは何かを考えてみたいと思う。

キーワード：

ニュース番組、キャスター、BGM、タイトルSE、現場ノイズ。

[Summary]

TV news programs were first broadcast in Japan in 1953. At the time, the programs lasted under 10 minutes and were broadcast every day. Announcers read radio scripts while referring to flip boards with text and pictures while maps were shown using cameras.

Eventually, the format of the programs changed where announcers would read news in front of the camera/audience, and announcers were gradually expected to not simply read the script but to read it in a manner where it seemed like they were talking. Around 1995, background music was played during weather forecasts and the format changed further to today's format where the title logo and time

appears on screen.

As the world continues to evolve rapidly, the talking speed of announcers has increased over the years. The aspect of "sound" in news programs has also changed matters to the point where now many broadcasts have announcers talking fast while background music, title sound effects, onsite noise and other sound is played. The following looks at how "sound" is used in news programs and what news programs are easy to listen to.

Keywords:

News program, announcer, BGM, title sound effects, onsite noise.

1. はじめに

テレビはニュースを最初を知るメディアとして暮しに大きな位置を占めている。

日本のテレビニュースが現在のようなアナウンサー以外のキャスターが伝えるきっかけは、1962（昭和37）年から放送されたアメリカの「CBSイブニングニュース」だと言われる。当時アンカーマンと呼ばれるキャスター、ウォルター・クロンカイト氏は、真摯な報道姿勢からアメリカ国民の70%以上が支持し、「世論に与える影響力は大統領よりも大きい」と言われていた。

アナウンサーはニュースを「読み上げ」、ニュースキャスターはニュースの「コメントや解説をする」と言われ、各放送局は影響力のあるキャスターを登用して独自のニュース番組制作を行っている。

テレビは画面を凝視して視聴している以外にも、何かをしながら視聴している場合も多く、筆者の経験からも「きっかけとなる音」を流すことで視聴者を振り向かすことが出来るメディアとも言える。

このような風潮が、ニュースコメントにBGMを付けスーパーに合わせて付けるME (Music Effect) などの音の多様化につながり、過剰な実況中継、まくし立てるアナウンサーとバラエティー的演出が顕在化しているように考える。これが聞きやすいニュースを目指していることなのか、実際の放送をサンプルし検証しようと思う。

2. テレビニュースの現状

2-1. 現場ノイズの使用

日本のテレビ放送は1953年（昭和28年）2月1日のNHKに始まり、放送開始当日から12時50分（放送開始は午後2時のため翌日から）と19時20分の2回、1日10分弱の定時ニュースの放送が行われていた。当時のニュース番組は、映像として撮りきりの文字やモノクロ写真、地図等の静止画だけで、音声はラジオ用に書かれた原稿をアナウンサーが読むだけのものではあった。

その後ニュースの映像取材には、16ミリのフィルム70DR、アイモ等のゼンマイ駆動式カメラで始まり、後にモーター駆動のアリフレックス16STなどで撮影した「動く映像」が

導入される。これらのカメラは音声を同時に収録することができないため取材現場の音声はなく、放送では編集されたこの映像に合わせてアナウンサーが原稿を読み上げる形式をとった。

1975（昭和50）年以降、映像取材はENG(Electronic News Gathering)が導入される。ENGはフィルムと違い、現像の時間を要しないことにより即応性が求められるニュースでは各局が挙って導入した。そして、音声と映像が同期して記録されることで、現場でのアナウンサー、記者の実況を収録することが可能となる。また、常に現場の状況音（現場ノイズ）を収録することでより実感させ事実を直接的に伝える表現を可能にした。これ以降のニュース放送は現場ノイズ生かした放送が定着するようになる。

現在のニュースは、基本的にカメラマンとVE（Video Engineer）の2人で取材に当たり、音声は必要に応じてVEが操作するポータブルミキサーを介してインタビューや記者会見の音声をカメラで収録する場合と、カメラに付属のマイク（通称:カメラマイク）で現場ノイズを収録し、記者リポート等はカメラ後部にビルトインされたワイヤレスマイクの受信機を通して収録する方法が取り入れられている。

現在ニュース取材で使われているカメラ（SONY HDV-750）を下に示すが、写真右側のカメラ前部にあるカメラマイクで現場ノイズを 後部にビルトインされているワイヤレスマイクの受信機を通してインタビューなどの音声を収録する。

ワイヤレスマイクの受信機



カメラマイク

SONY HDV-750

事件・事故、災害等の緊急を要する取材では、カメラマイクで現場ノイズを ワイヤレスマイクでインタビューやリポートを伝える方法が殆どである。つまり、カメラを廻せば音も必ず収録されるということになる。しかし、カメラマイクの音は、「現場ノイズが入る」程度のものである。

例えば、強風下ではマイクが風に吹かれ、嵐では雨粒がマイクに当たる音しか収録されないことも多い。

さらに録音レベルの管理を自動的に行う「オートマチック録音」のため、大きな音が入力されると自動的にレベル下げ、逆に小さな音源の音はレベルを持ち上げる特性がある。つまり、常に一定の音声レベルを保つように調整する特性のため、聞きにくい状態になる場合もある。また、カメラマイクは指向性の鋭いガンマイクのため、音源に対してマイクの方向性がずれることにより本来狙っている音を外すと言った欠点もある。

さらに、雨の中での撮影ではカメラ全体を覆う「レインカバー」をかけて収録することによりマイク本体もレインカバーの中に収まり音質の籠もった収録となる。また、レインカバーに直接雨が当たる「ポタポタ」という音のみが収録されることになる。

2-2. 現場の同録 -記者リポート・インタビュー-

ニュースは現場ノイズ以外に、事件・事故、災害報道では記者リポートをはじめ、現場でのインタビューなども多用されている。

これらの収録の殆どが「オートマチック録音」のため、静かな場所で普通の大きさを話せば問題ないが、現場ノイズの大きなところで大声でマイクに向かって話すと、言葉終わりでバックノイズが急に上がり、また話し始めるとバックノイズが下がるという現象が起き、バックノイズが大きくなったり小さくなったり聞きにくい音になる。

切迫している取材現場では音のクオリティーより、より早く取材し、より早く放送することの方が求められ、映像重視にならざるをえないが現実である。

2-3. 放送でのミキシング

取材された映像素材は編集され放送されるが、時には編集を行わず素材のまま放送されることも多々ある。

編集段階では、音の善し悪しにかかわらず取材現場で収録された音を、多少レベル補正を行なう場合もあるが、多くの場合は収録されたままの状態で放送されている。

これは、編集され放送された素材の全てを報道ライブラリー等アーカイブシステムに登録・保存され「報道資料」となるため、収録されている音声は全て生かして編集する事が前提になっている。

放送開始前には、基本的にカメラ、照明、音声、スイッチャーなどの技術スタッフ、ディレクター、フロアーディレクター、タイムキーパーをはじめとする制作スタッフと責任者となる編集長を含めニュース番組に関わる全てのスタッフで打合せが行われ、そこで進行表に基づいた原稿とキューシートにより内容が確定される。(p 5の画像に示す)

一般にニュース番組は冒頭にテーマ音楽が入り、スタジオでアナウンサーの挨拶から始まり、第一項目の概要紹介からVTRに入るパターンが多い。スタジオ部分にBGMが入るか入らないかの違いがあるものの、各局アナウンサーの声が明瞭に聞こえるようにミキシングされている。

VTRに入ると現場ノイズとアナウンサーの声との音量調整を行うことになるが、音声を担当するミキサーは事前に全てのVTRの音声をチェックすることがあまり無くフェーダーを握る場合が多い。VTRの長さや内容、インタビューなどをONで聞かせる所はキューシートに記入されており、タイムキーパーの読み上げる「ONまで〇〇何秒」等のカウントをきっかけでフェーダーを上げる。また、ニュースでは放送中に項目の差し替えや中継先などの変更により常に打合せ通りとはいかない。

[illegible]

番組進行表

[illegible]

スタジオ原稿

[illegible]

キューシート

2-4. ニュース番組における音の構成要素

2-4-1: 番組タイトル音楽

殆どの番組でタイトル音楽は採用されている。
この音楽を聴くと番組が認識されるような、番組を象徴した音楽であるように作られている。

またタイトル曲の長さも5秒から10秒程度のものが多い。



NHKニュース

2-4-2：スタジオ部分のBGMの意味

NHKのニュースを除く殆どのニュースでスタジオ部分にBGMを付けている。音楽を使うことでスタジオのコメントにリズムを付け、テンポ良く聞かす狙いがある。反面BGMを付けずにキャスターやアナウンサーのコメントだけにすることで、緊迫感と重要性を意識させる狙いもあると考える。



NEWS ZERO

2-4-3：挿入VTR中のBGMの意味

VTR中におけるBGMは、緊迫感やスピード感を出すため、音楽で煽る演出を行う場合がこのケースにあたる。また、資料映像やニュースの過去素材などVTRに音声が無い場合などにも付けられる。天気コーナーでは、気象衛星の映像、天気図、各地の天気と気温、フィラーと言われる季節の花々等を紹介するような映像には音声が付加されていないため、「コメントだけでは寂しい」などの理由からBGMを付ける場合も多い。

2-4-4：コーナータイトルとDVEに合わせた音楽（ME）

項目のタイトルスーパーに合わせたMEと、DVE（Digital Video Effect）による画像処理に合わせたMEがある。

MEとは、Music Effectの略で効果音楽とも呼ばれ、短い音楽を付けることでより効果的に印象付ける演出が可能になると言われる。

このMEを付けることで視聴者に内容が変わったこと等を音で印象づける目的がある。



NEWS EVERY

昨今、「音がないと寂しい」と、常に携帯プレーヤー等で音楽を聴いている(流している)人も多い。制作者の中にもコメントやナレーションのバックに現場ノイズ等の音が付かない場合、「何か物足りない」、「寂しい」等のノンモン恐怖症[※]も増えてきているようにも思える。

※音がないことを「ノンモン」(no modulation)と表現するが、この場合のノンモンとは、ナレーションやコメント以外の音声を言う。

3. 東京に於けるニュース放送の状況

以下に平成26年8月の平日の地上デジタル放送における情報番組（ワイドショー）以外の一般ニュース番組の放送時間とキャスターを示す。（但し緊急放送を除く）

（1）NHK

4：30～8：00 おはよう日本

（鈴木奈穂子アナ、池田達郎アナ、渡辺蘭気象予報士他）

9：00～9：05 ニュース・気象情報

10：00～10：05 ニュース・気象情報

11：00～11：05 ニュース・気象情報

12：00～12：15 昼のニュース（井上二郎アナ、関東ローカル：森花子アナ）

13：00～13：05 ニュース・気象情報

14：00～14：05 ニュース・気象情報

15：00～15：12 ニュース・気象情報

16：00～16：05 ニュース・気象情報

17：00～17：10 ニュース

18：00～18：10 ニュース・気象情報

18：10～19：00 首都圏ネットワーク（橋本菜穂子アナ、田中洋行アナ）

19：00～19：30 ニュース7（守本奈実アナ、寺川奈津美気象予報士）

20：45～21：00 首都圏ニュース（松村正代アナ、上條倫子アナ）

21：00～22：00 ニュースウォッチ9

（大越健介〔放送記者〕、井上あさひアナ、井田寛子気象予報士）

23：30～0：00 ニュースWEB

（鎌倉 千秋アナ、西東 大アナ、斉田季実治気象予報士）

（2）日本テレビ

4：00～5：50 Oha!4 NEWS LIVE

（中田有紀、吉竹史、酒井千佳、内田敦子、加藤多佳子、辻岡義堂アナ）

5：50～8：00 ZIP

（榎太一アナ、北乃きい、小熊美香アナ）

11：30～11：45 ストレイトニュース

（山本紘之アナ、森富美アナ）

15：50～19：00 news every

（藤井貴彦アナ、陣内貴美子、中島芽生アナ、鈴江奈々アナ、小栗泉解説委員）

23：00～23：59 NEWS ZERO

（山岸舞彩、右松健太アナ、鈴木崇司アナ、塩川菜摘）

（3）TBS

5：00～5：30 はやチャン

（高野貴裕アナ、佐藤渚アナ、尾崎朋美気象予報士）

5：30～8：00 あさチャン

（井上貴博アナ、佐藤渚アナ、尾崎朋美気象予報士）

15：53～19：00 Nスタ

- (山内あゆアナ、藤森祥平アナ、赤荻歩アナ、小林悠アナ他)
- 20:54~21:00 フラッシュニュース (斉藤哲也アナ)
- 22:54~23:53 NEWS 23
- (膳場貴子、蓮見孝之アナ、國本未華気象予報士)
- (4) フジテレビ
- 4:00~5:25 めざましテレビ アクア
- (倉田大誠アナ、中村光宏アナ、皆藤愛子、三上真奈アナ、永島優美アナ)
- 5:25~8:00 めざましテレビ
- (三宅正治アナ、加藤綾子アナ、軽部真一アナ、山崎夕貴アナ、三田友梨佳アナ)
- 11:30~11:55 FNN スピーク
- (野島卓アナ、斉藤舞子アナ)
- 16:50~19:00 スーパーニュース
- (安藤優子、生野陽子アナ、椿原慶子アナ、榎並大二郎アナ)
- 20:54~21:00 NEWS Pick Up (フジテレビアナウンサー)
- 23:45~0:25 LIVE 2014 ニュース JAPN
- (大島由香里アナ、木村拓也アナ、奥寺健アナ)
- (5) テレビ朝日
- 4:55~8:00 グッドモーニング
- (坪井直樹アナ、松尾由美子アナ、依田司気象予報士)
- 16:53~19:00 スーパーJチャンネル
- (渡辺宜嗣アナ、八木麻紗子アナ)
- 21:54~23:10 報道ステーション
- (小川彩佳アナ、林美沙希アナ)
- (6) テレビ東京
- 5:45~6:40 News モーニングサテライト
- (佐々木明子アナ、林克征アナ、瀧口友里奈)
- 11:13~11:35 Mプラス
- (梅津智史アナ、前田海嘉アナ、末武里佳子アナ)
- 16:53~17:20 NEWS アンサー
- (森本智子アナ、矢内雄一郎アナ、村木祐輔気象予報士)
- 23:00~23:58 ワールドビジネスサテライト
- (大江麻理子アナ、大浜平太郎アナ、豊島晋作アナ)

4. テレビ放送のデジタル化に伴う音声

2011(平成23)年7月に停波したアナログテレビ放送では、映像と音声は別々の周波数で伝送され、音声はFM変調で周波数帯域を50[Hz]~15[kHz]と電波法で帯域制限をしていた。また、音声にピーク成分があると映像に影響が出ることにより、送出段にリミッターやコンプレッサーなどのレベルコントローラー、さらにピーク成分を完全にカットする機器が組み込まれ、抑制して放送されていた。

放送がデジタル化した現在、上記したレベル抑制の機器を通さず、映像と音声はひとつのデジタル信号として送出されている。音声のサンプル周波数も44.1[kHz]以上で少なくとも20[kHz]まで再現可能となっている。

デジタル放送のメリットであるハイビジョンの高画質、CD並の高音質を活かすために送出段階でのコントロールはできる限り行わないとしてスタートした。現実には、素材の音量差がそのまま放送されるために素材ごとの音量のばらつきが生じた。2011年5月、ドラマやバラエティー番組、CMは視聴者に統一された音量・音質で放送されることを目的として、「人が感じる音の大きさ」という概念を用いて規定し技術基準が策定され、2012年10月1日より運用が開始された。以下にNAB（National Association of Commercial Broadcasters in Japan）技術基準を示す。

日本民間放送連盟NAB技術基準 T032「テレビ放送における音声レベル運用基準」T032 - 2011

1. 総則

テレビ放送における音声は、視聴環境を考慮して制作すべきであり、視聴者に違和感や不快感を与えるものであってはならない。

本技術基準は、テレビ放送用の番組が視聴者にとって適正で統一された音量・音質で制作・放送されることを目的とし、ラウドネス（人が感じる音の大きさ）という概念を用いて規定する。

その内容は、一般社団法人電波産業会（ARIB）が制定した技術資料ARIB TR - B32「デジタルテレビ放送番組におけるラウドネス運用規定」に準拠する。

なお、本技術基準の順守にはラウドネスメータの整備など運用に向けての準備が必要であるため、適用開始時期については別途定める。

2. 適用範囲

本基準は、テレビ放送において制作・搬入・送出・交換するすべての完成番組の音声信号に適用する。なお、番組とは一般番組やCMを指すものとする。

5. 高齢化とニュース

ENGの導入によりニュースフィルム取材の現像時間が無くなり、速報性の高い放送が可能となった。放送ではVTRで同時収録された音声（現場ノイズ）は取材現場の臨場感と緊張感を喚起し、視聴者にインパクトを与える事などから、アナウンサーのコメントバックに重ねて流すことが一般化している。近年の「ニュースのワイドショウ化」は、背景音以外にBGMやサウンドロゴなどの効果音楽等を付加することも多くなっている。また、事件・事故現場からの中継等ではリポーターが早口でまくし立てるような場合もあり、スタジオのアナウンサーの原稿を読むスピードも速くなる傾向が顕在化している。

視聴者にとって明瞭にニュースコメントが聞こえるためには、アナウンスコメントの音量・音質と背景音、BGM、効果音等とのバランスが強く求められる。

特に高齢化が進む現在、「高齢者も含めた誰にでも聞きやすい音声」を考えたミキシングも重要でないかと著者は考えている。

高齢者が聞き取りにくくなる原因として、①高い周波数帯域で聴力の低下がみられる「老人性感音難聴」、②声と背景音の区別が困難になる「分離能力低下」、③早口が聞き取りにくくなる「時間特性の劣化」、④小さな音は聞き取りにくく、大きな音は不快に感じ

る「リクルートメント現象」が挙げられ、これらは高齢になると誰もがなりうる現象である。

以下にこのような視点からニュース原稿を読むスピードと音構成のサンプリングを行い分析する。

6. ニュース原稿とスピード

放送開始から60年以上が経過し世の中のスピードも年々加速している今、テレビ番組以外の「話し言葉」も速くなる傾向にあり、結果、高齢者は聞き取りにくくなっている場合も多い。

「テレビ・ラジオ新アナウンス読本」では、話すスピードには決まりは無いとしつつも「こどもニュース」で、1分間に250字。「一般ニュース」では 300～350字と記されている。これら速度であれば、老人も含めて日本人のほぼ全員が理解できる事になっているとしている。

また、テレビの音声を聞きながらキーボードにブラインドタッチで入力した場合、1分間に100～200字程度が一般的と言われ、1級速記者試験では、320字である。

相手が聞きやすく、理解しやすく好感度をアップさせる話すスピードの基準は、1分間に約300字。落ち着いて相手を説得するときの基準は、約250字。さらに話に勢いをつけるなら約400字といわれ、早いと感じるのは650文字以上となる。

ちなみに映画の字幕は、読むスピードに換算すると平均1秒当たり3～4文字で、1分間に180～240文字が表示されている。

6-1. サンプルからの発話速度の比較

比較方法は、各局のニュースを録画し主なニュース・天気予報を抜粋、コメントを一般的な「漢字仮名交じり文」に起こす。しかし、漢字と仮名の比率によって差が出るため「拍数」に置き換え、1分に満たないものは60秒に換算して割り出した。

6-1-1: 2014(平成26)年8月11日(月)のニュース

(1) NHKおはようニッポン

①台風11号関連

(鈴木奈穂子、池田達郎アナ顔出し) : 449字/分

池田達郎アナ オフコメント※ : 438字/分

※オフコメント : VTRに対するコメントリー、以下オフコメと記す)

鈴木奈穂子アナ オフコメ : 401字/分

②ASEAN外相会議(鈴木奈穂子アナ顔出し) : 512字/分

鈴木奈穂子アナ オフコメ : 420字/分

③天気コーナー(渡辺蘭 気象予報士) : 499字/分



(2) 日本テレビ Z I P

- ① 天気コーナー（岩本乃蒼アナ顔出し～オフコメ）
：417字/分
- ② 交通情報（女性N a）：473字/分
- ③ 台風11号関連（榎太アアの顔出し～オフコメ）
：502字/分



(3) めざましテレビ

- ① 台風11号関連（倉田大誠アナ顔出し～オフコメ）：497字/分
（加藤綾子アナ顔出し～オフコメ）：455字/分
- ② 中継（二階堂記者）：430字/分
- ③ A S E A N 外相会議
（加藤綾子アナ顔出し～オフコメ）：510字/分
- ④ タイの代理出産
（倉田大誠アナ顔出し～オフコメ）：433字/分
- ⑤ 天気コーナー（小野綾香タレント）：431字/分



(4) テレビ東京 モーニングサテライト

- ① A S E A N（佐々木明子アナ）
：424字/分、 オフコメ：480字/分
- ② 台風11号関連（林克征アナ）：494字/分
- ③ 天気（瀧口友里奈 タレント）：441字/分



(5) NNNストレイトニュース

- ① リード～台風11号関連
（山本紘之アナ顔出し～オフコメ）：408字/分
- ② 交通事故
（女子森富美アナ顔出し）：413字/分、
女性N a：420字/分
- ② A S A E 男性（山本紘之アナ顔出し～オフコメ）：470字/分
- ③ 内閣支持率（山本紘之アナ顔出し～オフコメ）：415字/分



(6) フジテレビ FNNスピーク 野島卓アナ、斉藤舞子アナ

- ① 台風11号関連
（斉藤舞子アナ顔出し）：450字、
男性N a：389字/分
（斉藤舞子アナN a）：440字/分
- ② 突風関連（野島卓アナ顔出し～オフコメ）
：422字/分
- ③ 内閣支持（斉藤舞子アナ顔出し）：433字/分、



野島卓アナ オフコメ：411字/分

④代理出産（野島卓アナ顔出し～オフコメ）：406字/分

⑤天気（斉藤舞子アナ顔出し～オフコメ）：417字/分

(7) NHK昼ニュース

①台風11号関連

（井上二郎アナ顔出し～オフコメ）：447字/分

中継（的場恵理子記者：徳島）：409字/分

②熱中症（井上二郎アナ顔出し～オフコメ）：428字/分

③株式（井上二郎アナ顔出し～オフコメ）：469字/分

④関東ローカル（森花子アナ顔出し～オフコメ）：413字/分



(8) Nスタ

①代理出産（加藤シルビアアナ顔出し～オフコメ）

：425字/分

②佐野市の段ボール（小林悠アナ顔出し）

：528字/分、

女性Na：446字/分

③台風11号関連（藤森祥平アナ顔出し）：526字/分、

男性Na：414字/分



(9) ニュースevery

①リード（鈴江奈々アナ、中島芽生アナ顔出し～オフコメ）：425字/分

②飛び込み・韓国高官会議

（中島芽生アナ顔出し～オフコメ）：424字/分

③「キョウこれ」リード（陣内貴美子、藤井貴彦アナ
オフコメ）：459字/分

④台風11号関連

（伊藤綾子フリーアナ顔出し～オフコメ）：400字/分

⑤台風11号関連（藤井貴彦アナ顔出し～オフコメ）：412字/分

⑥佐世保同級生殺人（伊藤綾子フリーアナ顔出し）：515字/分

男性ナレーション：361字/分

⑦サッカー（藤井貴彦アナ顔出し～オフコメ）：453字/分



(10) スーパーニュース

①佐野市の段ボール

（安藤優子オフコメ）：387字/分

②リード～特集

（安藤優子、椿原慶子アナ顔出し）：393字/分

③ジェットコースター



(榎並大二郎アナ顔出し～オフコメ) : 374字/分

④代理出産 (松村未央アナアナ顔出し～オフコメ) : 443字/分

⑤日航機墜落 (椿原慶子アナ顔出し～オフコメ) : 427字/分

(安藤優子顔出し) : 386字/分

(11) NHK ニュース 7

①台風11号関連

(守本奈実アナ顔出し) : 385字/分

(同 オフコメ) : 363字/分



②世論調査 (守本奈実アナ顔出し～項目N a) :

416、436、438、411、474、317字/分、

結果男N a : 367、357、355、337字/分

③天気 (寺川奈津美気象予報士) : 439字/分

(12) NHKニュースウォッチ 9

①台風11号関連 (女性N a) :

407字/分、(男性N a) : 388字/分

②リード (大腰健介、井上あさひアナ

顔出し～オフコメ) : 421字/秒

③イラク関連 (女性N a) : 420字/分

④天気 (井田寛子気象予報士) : 445字/分



(13) NEWS ZERO

①飛び込み(男性N a) : 483字/分

②山本議員 (山岸舞彩顔出し～オフコメ)

: 485字/分

③代理出産 (男子アナ顔出し～オフコメ)

: 481字/分

④天気 (塩川菜摘 顔出し～オフコメ) : 417字/分



(14) NEWS 2 3

①佐野市の段ボール (男性N a) : 379字/分

②佐世保同級生殺人 (女子アナ顔出し)

: 466字/分



(15) 報道ステーション 富川悠太アナ

- ①佐野市の段ボール（小川彩佳アナ顔出し）
：406字/分、男性Na：396字/分
- ②天気（林美沙希アナ）：382字/分



(16) ニュースジャパン

- ①台風11号関連（大島ゆかりアナ顔出し）
：470字/分
- ②佐野市の段ボール（奥寺健アナ顔出し）
：446字/分、男性Na：318字/分
- ③山本議員（大島ゆかりアナ顔出し）：433字/分
- ④日航機墜落（奥寺健アナ顔出し）：447字/分



6-1-2：2014（平成26）年8月15日（月）のニュース

(1) NHKおはよう日本

- ①終戦（池田達郎アナ顔出し～オフコメ）：425字/分、（男性Na）：356字/分
（鈴木奈穂子アナ顔出し）：377字/分
- ②日韓関係（鈴木奈穂子アナ顔出し）：419字/分

(2) FNNスピーク

- ①終戦（山中章子アナ顔出し）：391字/分、野島卓アナ オフコメ：398～402字/分

(3) NHKニュース

- ①終戦（井上二郎アナ顔出し男）：447字/分、（オフコメ）：416字/分

(4) NHKニュース7

- ①帰省（守本奈実アナ顔出し～オフコメ）：389字/分
- ②終戦（守本奈実アナ顔出し～オフコメ）：401字/分
（守本奈実アナ オフコメ）：358～386字/分（372）

(5) NHKニュースウォッチ9

- ①リード（男性Na）：274～362字/分（319）
- ②終戦（井上あさひアナ顔出し）：334字/分
（オフコメ）：392～356字/分（374）

(6) 報道ステーション

- ①終戦（富川悠太アナ顔出し）：327字/分、（女性Na）：394字/分
- ②死体遺棄（小川彩佳アナ顔出し）：409字/分
（男性Na）：530～401字/分（466）

(7) ニュースジャパン

- ①死体遺棄（大島ゆかりアナ顔出し）：413字/分、（女性Na）：391字/分
- ②タレントローラの父（奥寺健アナ顔出し）：432字/分
（奥寺健アナ オフコメ）：421字/分
- ③靖国（大島ゆかりアナ顔出し～オフコメ）：433字/分



8月15日は「終戦の日」で、各局第一項目に「終戦の日」の出来事を持って来ている。どれも1分間に350～380字と、ゆっくり読むことで他の項目と区別している。

8月14日の一般ニュースの平均が1分間に433字だった。ニュースコメントではないが参考までに、終戦の日の安倍総理大臣の挨拶が1分間に258字、天皇陛下のお言葉は184字と極めてゆっくりであった。

一般に1分間に250～350字の速度であれば、老人も含めて日本人のほぼ全員が理解できるとされている。理解しやすく好感度をアップさせる話すスピードの基準は、1分間に約300字。落ち着いて相手を説得するときの基準は約250字と言われるところから来ているものと考えする。

6-1-3：各ニュースの速度比較

8月11日（月）のニュース

項目	ショット	平均（字/分）
トップ（台風）	男性顔出し	465
	オフ	407
	女性顔出し	417
	オフ	403
	中継	420
外信	男性顔出し	470
（海外ニュース）	女性顔出し	467
	オフ	450
	中継	460
社会ネタ	男性顔出し	442
	オフ	387
	女性顔出し	453
	オフ	437
内閣支持率	男性顔出し	410
	オフ	383
	女性顔出し	424
スポーツ	男性顔出し	453
天気・（株式）		429
交通情報		445

8月15日（月）のニュース

項目	ショット	平均（字/分）
トップ（終戦）	男性顔出し	376
	オフ	358
	女性顔出し	387
	オフ	365
外信	女性顔出し	420
社会ネタ	男性顔出し	432
	オフ	443
	女性顔出し	403
	オフ	319

上記表は、8月14日と15日のニュースを項目毎に分類し、男性、女性、顔出し、オフコメ、中継等それぞれの平均をとったものである。

表より災害等の社会、外信（海外ニュース）の読むスピードは速いもので、1分当たり450字以上あり、どれも400字を超えている。

一方、天気予報はフリップボードに合わせて読むために、1分間に430字程度で交通情報も文字スーパーがあるため、約450字弱になったと思える。

内閣支持率のようなアンケートの数字を読む場合は、1分間に383字とゆっくり読むことで視聴者に内容を正確にわかり易く示していると考察する。

顔出しのスピードがオフコメに比べ全て速くなっていることの要因として、

- ①視聴者との信頼関係。
- ②顔（口元）が見えることから視聴者も話しの内容が理解しやすい。
- ③VTR中は映像のカットに合わせて話すため、ニュース原稿に時間的余裕がある。などが考えられる。

7. 音構成の比較

8月11日のニュース番組に使われている音の構成についてサンプリングを行った結果は以下の通りである。

（1）NHK「おはようニッポン」（4：30～8：00）

テーマ音楽から番組のタイトルにあわせたMEが入り、スタジオで池田達郎アナ、鈴木奈穂子アナの挨拶。第一項目の紹介からVTRに入りオフコメと現場ノイズが薄くミックスされる。特集や企画などのタイトルバックにはBGMが入ることもある。

スポーツコーナーは約5秒のタイトル音楽が入り、スタジオはコメントのみ。天気予報も同様にコメントのみでBGMはない。またその日に取り上げるニュースを紹介するコーナーでは、スタジオのコメントバックにBGMと項目変わりのMEが入る。

（2）日本テレビ「ZIP」（5：00～8：00）

榎太一アナ、岩本乃蒼アナ2人がスタジオに板付き、冒頭からBGMと項目スーパーきっかけのMEが入る。VTRの記者リポートでBGMが無くなり、実景では現場ノイズと共にBGMが流れる。他のコーナーでもスタジオでは必ずBGMが入る。番組最後の天気予報でも引き続きBGMがある。

（3）フジテレビ「めざましテレビ」（5：25～8：00）（NEWS ONE）のコーナー

タイトルロゴからBGMが入り、スタジオの三宅正治アナ、加藤綾子アナ2人のコメントバックに流れ続け、更に項目変わりのスーパーに合わせたMEが付く。VTRはオフコメと現場ノイズ、項目によってMEやBGMがミックスされる。スタジオ部分と天気コーナーも必ずBGMが付く。また、テーマ曲として曜日毎にヒット曲を流している。

（5）日本テレビ「ストレイトニュース」（11：30～11：45）

番組テーマ音楽からBGMが流れる中、スタジオ山本紘之アナ女子森富美アナ2人の挨拶、タイトルロゴが入り第一項目の振りからVTRに入るとBGMが無くなり、VTRはオフコメと現場ノイズだけ。第二項目以降もスタジオVTR共、同じ音構成で進行される。経済情報にはBGMが付く。

(6) フジテレビ「FNNスピーク」(11:30~11:55)

番組テーマが流れる中、ナレーションからタイトルで音楽は終わる。スタジオでの野島卓アナ、斉藤舞子アナ2人のコメントにはBGMは付かない。VTR映像の入りに合わせてMEが付くがVTRからはオフコメバックに現場ノイズが薄くミックスされるだけとなる。提供バックのBGMからスタジオでの振りに入り、項目によってはBGMが付く、天気コーナーもBGMが付く。

(7) NHK「昼ニュース」(12:00~12:15)

番組テーマ音楽が終了するとスタジオで井上二郎アナのコメントに入る。VTRはオフコメと現場ノイズが薄くミックスされる。別の項目もスタジオ、VTR共、同様にオフコメと現場ノイズだけで進行する。株式情報、関東ローカルに入っても同様。

(8) TBS「Nスタ」(15:53~19:00)

番組テーマ音楽が流れる中、堀尾正明アナ、加藤シルビアアナとゲストが板付き第一項目に入るとBGMは無くなる。スタジオで加藤アナのプレゼンテーションがあるがBGMは付かない。

「3コマニュース」のコーナーでは、タイトルからBGMが入り顔出しコメント中も音楽が流れタイトル毎にMEが入る。VTRは現場ノイズとナレーション、そして現場ノイズのない素材にはBGMが付く。別のコーナーではスタジオの小林悠アナの顔出しバックにBGMがあり、VTRからはナレーションと現場ノイズ。また項目毎にMEが付く、天気もBGMが入る。

(9) 日本テレビ「ニュースevery」(15:5~19:00)

VTRとナレーションから番組が始まり、タイトル音楽、スタジオでの挨拶にBGMが入る。「time 4」はバーチャルスタジオが使われ、タイトル音楽、スタジオBGMにスーパー・CGに合わせたMEが入る。VTR中もBGMは続いており、現場ノイズもミックスされる。「お帰り天気」のコーナーもBGMが入る。

「キョウこれ」も同様。タイトル音楽、スタジオBGMにスーパーに合わせたMEが入る。VTR中もBGMは続いており現場ノイズもミックスされるが、途中でナレーションと現場ノイズだけの部分もある。

(10) フジテレビ「スーパーニュース」(16:50~19:00)

番組も冒頭の「速報」では安藤優子のオフコメから入る。現場ノイズは無くコメントのみ。そして出演者全員板付きのスタジオからBGMが入り挨拶、リードいっぱいBGMがある。VTRに入るとオフコメと現場ノイズだけで進行。

検証ビデオではナレーションとBGMに現場ノイズがミックスされる。スタジオではBGMが入り、別項目ではタイトルに合わせてMEが付く。天気もBGMが入る。

(11) NHK「ニュース7」(19:00~19:30)

番組テーマ音楽からVTRでオフコメとBGM、タイトルロゴが入りBGMがなくなり守本奈実アナ顔出し挨拶となる。VTRからオフコメと現場ノイズが薄くミックスされる。別の項目のスタジオコメントのバックにBGMは無く、世論調査(資料映像)も音楽を付けない。「その他のニュース」のみ、タイトルに合わせたMEが入る。

(12) NHK「ニュースウォッチ9」(21:00~22:00)

タイトルからVTRに入り現場ノイズとナレーション。テーマ音楽からBGMが入り

スタジオで大腰健介、井上あさひアナ2人の挨拶。BGMが終わりVTRはオフコメと現場ノイズが薄くミックスされる。天気も同様だが「各地の天気と気温」のみ薄くBGMが入る。スポーツはタイトル音楽が入る。また、高校野球の結果のみBGMが入る。

(13) 日本テレビ「NEWS ZERO」(23:00~23:59)

番組テーマから提供に入り、BGMが変わりスタジオでの出演者挨拶。「今日のメニュー紹介」はMEが入りトップ項目の振りでBGMが代わりVTRまで続く。VTR中も無音映像などではBGMが入ることもある。

「24hコーナー」はスタジオBGMとタイトルロゴにMEが付き、さらにタイトルに合わせたMEもダブル。各項目、現場ノイズとBGMがミックスされ、天気にもBGMが入る。また番組終わりに合わせてテーマ曲が入る。

(14) TBS「NEWS 23」(22:54~23:53)

タイトル音楽からVTRに入り、VTR中はオフコメとBGM、現場ノイズで構成。「ニュース23」コーナーではスタジオBGMからタイトルにあわせたMEが付き、さらにタイトルに合わせたMEもダブル。VTR中もBGMある。

(15) テレビ朝日「報道ステーション」(21:54~23:10)

古舘一郎が夏休みのため、富川悠太アナが代行。

タイトル音楽がスタジオ挨拶まで入りVTRの振りからはコメントのみ。VTR中は一切音楽を使用せず現場ノイズとナレーション、リポートのみでスタジオへ戻る。スタジオもBGMはない。その他のニュースでは、項目毎にタイトルに合わせてMEが入るがVTR中は現場ノイズとナレーションのみ。天気もBGMは入らない。

(16) フジテレビ「ニュースジャパン」(23:45~0:25)

タイトル音楽がスタジオ挨拶まで入りVTRの振りからはコメントのみ。VTR中は現場ノイズとナレーションで進行するが、無音映像では音楽が薄く入りスタジオへ戻る。スタジオもBGMは無く、それ以降の項目も同じパターン。天気からエンディングBGMが入り終わる。

7-2. 考察と結果

朝のニュース番組は各局4時30分、5時と早朝からの放送のため、時間帯毎にニュースを繰り返すリピート方式を採用している。民放各局は若年層を意識した選曲が行われ、曜日替わりなどにヒット曲をテーマ曲として用いている。通勤通学前の時間のため、耳からの情報も意識したサウンドプランもBGMの多用から考察できる。

昼はその日の午前中のニュースが中心となるため、筆者の経験からも項目の差し替えなどが頻繁に行われるためスタジオ部分のBGMが入る程度で、VTRは現場ノイズとコメント中心となる。天気、経済情報には薄くBGMが付く。

夕方は主婦層をターゲットにしているため、事前に作った特集や企画も多い。またその日のニュースの追加取材分を入れ再編集したものもありBGMやMEが多く使われる。夜は大人の男性をターゲットにしているため、落ち着いた構成が多い。

8. 結語

現在、ニュースを読む・伝えるキャスターもアナウンサーだけでなく、話す訓練を専門的に受けていないタレントや文化人などの一般人も多く登用されている。テレビは、様々な地域に住む不特定多数の視聴者に情報を届けるメディアである。「今何をどのようなスピードで伝えるかを精査するか」を考える必要もあると思う。

だがニュースは今、視聴者を振り向かすために様々な情報を映像と音声に取り込んでいると言ってよいだろう。

ニュース番組における音声はBGMや現場ノイズ、コーナータイトルとDVEに合わせたME、そして話すスピードも1分間に約450字と聞きやすい速さとされる300字の1.5倍である。

昨今はデジタル技術が進み、スマートホンなどで撮影された視聴者映像も同時に記録された音声とともにニュース番組ではよく使われるようになった。

ニュースでは即報性が一番優先されるが、そこで本当に必要な音とは何なのか、今一度考える時期が来ているのではないだろうか。著者は、その基本となるものは作り手が視聴者に伝えるべき情報は何なのかとすることを再度確認し、放送すべきではないかと考える。放送開始から様々な形式で変化を続けてきたニュース。そしてニュース番組を含めた報道番組のワイドショウ化が騒がれている現在、「情報の内容の正確さ」より「伝えるための手法」と言った演出が優先され、そのため様々な技法によってショーアップした表現が目立ってきているように思う。

VTR中のニュース原稿を読む人達もアナウンサー、キャスター、記者以外に声優やナレーターを起用している場合もある。声優やナレーターのキャラクターが持つ間テキスト性によってニュースの内容を過剰演出する場合もあると考える。

筆者が過去に制作したニュース特集のスペシャル番組でも、内容によってナレーターを変えることで表現を意識し、言葉に意味を持たせる演出をした事がある。

果たしてBGMやタイトルスーパーに合わせたMEは必要なのだろうか。また、アナウンスコメントで視聴者を煽ることも必要なのだろうか。他に優先させることや被害者への配慮にも注意を払った正しい報道を願う。そして今後も発展して行くであろうニュースのあり方に注意を払っていきたい。

引用文献

加藤昌男「テレビの日本語」岩波新書 2012年

植村頼音、大山勝美、澤田隆二著「テレビは何を伝えてきたか」 筑摩書房 2012年

水谷修著「話し言葉の表現」 筑摩書房 1983年

新版「NHKアナウンスセミナー」 日本放送協会 2005年

萩原滋、横山滋、斉藤慎一、川端美樹、李光鎬、福田充著「変容するメディアとニュース報道」 丸善出版 2001年

一般法人「日本民間放送連盟」NAB 技術規準 T032「テレビ放送における音声レベル運用規準」

映像取材から見たテレビ報道の歴史 TBS資料

日本音響学会2003年春期研究発表(聴覚・音声) 講演論文集2003年3月